

第5節 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

1. 教育学部附属光中学校防球ネット設備工事に伴う立会調査

調査地区 光構内中学校体育館北東側空地

調査面積 1m²

調査期間 平成22年8月19日

調査担当 横山成己

調査結果 教育学部より、附属光中学校体育館北東側に防球ネットを新設する事業計画が提出された。ネット支柱基礎部はボーリングにより掘削されるため、遺構・遺物の確認は極めて困難な状況と判断されたが、筆者はかつて光構内において多量の遺物を包含する黒褐色砂礫層の分布域を考察したことがあるが、光中学校体育館は推定分布域の中心に立地するため、該当地に遺物包含層が遺存する可能性は極めて高いと推定された。よって掘削後の土層観察と排土中の遺物確認を目的に立会調査を実施することとなった。

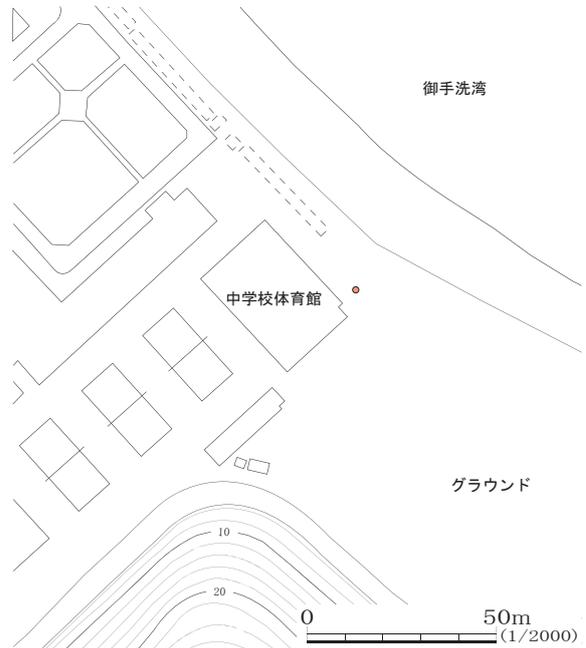


図44 調査区位置図

調査の結果、現地表下1.3mまでが造成土であり、その下位に遺物包含層と推定される層厚約0.3mの黒色砂質土層が目視により確認された。さらに下位には褐色の海砂と思われる堆積層が存在するようであった。排土はボーリングにより複数層が混合して上がってくるため、黒色砂質土を判別できる状況になく、遺物も確認されなかった。



写真85 土層断面(南西から)

調査地点は海岸線に近く、構内西部の丘陵付近に比して遺物包含層も現地表深くに遺存することが想定される。今後の開発計画に対しては旧地形の高低差を意識しての埋蔵文化財保護対応が必要である。

【註】

1) 横山成己(2005)「光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成15年度』, 山口

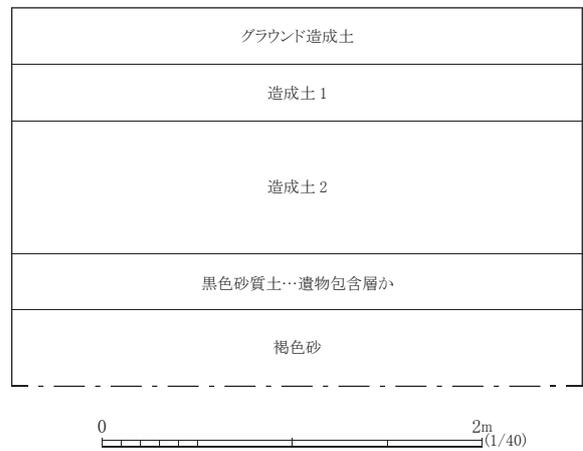


図45 土層断面柱状図